

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	T-LOGI本庄児玉	階数	地上2F
建設地	埼玉県児玉郡上里町	構造	S造
用途地域	無指定地域、防火指定無し	平均居住人員	26人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年10月 竣工	評価の実施日	2023年7月27日
敷地面積	25,418 m ²	作成者	関東建設工業(株)一級建築士事務所
建築面積	14,815 m ²	確認日	2023年7月27日
延床面積	15,582 m ²	確認者	関東建設工業(株)一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.0

3 設計上の配慮事項		
総合	自然冷媒や太陽光を用いた環境配慮型冷凍倉庫を計画している。	
その他	Q2:補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど建物の耐用性・信頼性に配慮している。	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
評価対象外	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。内装材は防汚性に配慮した材料を使用するなど維持管理に配慮している。	敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。視線を遮らない様な樹木の配置、防犯カメラの設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
太陽光発電システムや、高効率の設備機器を採用するなど、エネルギー面にも配慮している。	自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど水資源を保護している。OAフロアを採用するなど部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
T-LOGI本庄児玉

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質									3.7
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル		-			-	-	-	-	
1.2 遮音		-			-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-			-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-			-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-			-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-			-	-	-	-	
1.3 吸音		-			-	-	-	-	
2 温熱環境									
2.1 室温制御		-			-	-	-	-	
1 室温		-			-	-	-	-	
2 外皮性能		-			-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		-			-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-			-	-	-	-	
2.3 空調方式		-			-	-	-	-	
3 光・視環境									
3.1 屋光利用		-			-	-	-	-	
1 屋光率		-			-	-	-	-	
2 方位別開口		-			-	-	-	-	
3 屋光利用設備		-			-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-			-	-	-	-	
1 屋光制御		-			-	-	-	-	
3.3 照度		-			-	-	-	-	
3.4 照明制御		-			-	-	-	-	
4 空気質環境									
4.1 発生源対策		-			-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-			-	-	-	-	
4.2 換気		-			-	-	-	-	
1 換気量		-			-	-	-	-	
2 自然換気性能		-			-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-			-	-	-	-	
4.3 運用管理		-			-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-			-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-			-	-	-	-	
Q2 サービス性能						0.43			3.9
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ		-			-	-	-	-	
1 広さ・収納性		-			-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-			-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-			-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-			-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-			-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-			-	-	-	-	
3 内装計画		-			-	-	-	-	
1.3 維持管理		-			-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-			-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-			-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.2	0.50			3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振		-			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		-			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		-			3.4	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		-			2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:塗床20年、壁:不燃コート50年、天井:キーストンプレート(鋼板)40年			5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管:VLP・VP(B)、汚水管:VP(B)、雑排水管:VP(B)、Eは不採用			5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		-			3.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		-			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		器具総数の過半に節水型器具を採用、可能な限り配管の系統を区分、受水槽に蛇口を設置			4.0	0.20	-	-	
3 電気設備		-			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスA			4.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、精密機器の地下空間への設置を避けている、災害時に使用可能な有線電話、FAX等を設置等			5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			4.6	0.50	-	-	4.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.05	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		床積載荷重:4500N/m ² 以上、架構用、地震用も同様に割増	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			4.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材・仕上材を傷めることなく修繕・更新が可能	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルラック、天井コログシ配線、PF管を採用	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	ケーブルラック、PF管、空配管を採用	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	3.6
1 生物環境の保全と創出		立地特性に基づいた計画方針を決定、植物を復元、自生種の保全・野生小動物の生息域の確保に配慮、散水栓を計画、建物利用者が自然に親しめる環境を計画	5.0	0.30	-	-	5.0
2 まちなみ・景観への配慮		-	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用		-	3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BPI _m =0	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		主要水栓に節水型器具を採用、省水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水を散水用に利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.60	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減		-	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		天井材・ボード、床仕上材・ビニル床シート、タイルカーペット	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		持続可能な森林から算出された木材使用比率が50%以上	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+LGS+仕上とし、躯体と仕上材が容易に分別可能、OAフロアを採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.20	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		対象の建材を4つ以上採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	4.0
1 地球温暖化への配慮		運用時のLCCO ₂ 排出量を低減	4.8	0.33	-	-	4.8
2 地域環境への配慮			4.1	0.33	-	-	4.1
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の採用無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		気象庁のデータを用いて風向風速卓越風等の風環境を把握	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場及び管理用車両の駐車施設確保等	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ量の推計やストックスペースの設置、有価物の回収を計画等	4.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの過半を満たし、広告物照明がない	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	4.0	-	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	13.0	-	2.0	2.0	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	-	-	1.0	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0	-	-	1.0	-	2.0	1.0	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	5.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	13.0	-	1.0	-	2.0	3.0	2.0	1.0	-	3.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
主な指標															
Q1 室内環境															
2.1.3 外皮性能															
窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -															
U値(W/m ² K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -															
住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -															
3.1.1 昼光率															
昼光率 0.0%															
4.2.2 自然換気性能															
自然換気有効開口面積率 0.0%															
Q2 サービス性能															
1.1.1 広さ・収納性															
執務スペース .0m ² /人 病床 .0m ² /床 シングル .0m ² ツイン .0m ²															
1.1.2 高度情報通信設備対応															
コンセント容量 30.0 VA/m ²															
1.2.1 広さ感・景観															
天井高 2.5 m															
1.2.2 リフレッシュスペース															
リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%															
2.2.1 躯体材料の耐用年数															
想定耐用年数 0 年															
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															
想定必要間隔 0 年															
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															
想定必要間隔 20 年															
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔															
想定必要間隔 0 年															
3.1.1 階高のゆとり															
階高 0 m															
3.1.2 空間の形状・自由さ															
壁長さ比率 5.0%															
3.2 荷重のゆとり															
床荷重 - N/m ²															
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出															
外構緑化指数 56% 建物緑化指数 0%															
3.2 敷地内温熱環境の向上															
空地率 44% 水平投影面積率 6% 地表面対策面積率 25% 舗装面積率 22%															
LR1 エネルギー															
1 建物外皮の熱負荷抑制															
BPI/BPI _m - 断熱等性能等級 対象外 相当															
2 自然エネルギー利用															
自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m ² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%															
通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%															
3 設備システムの高効率化															
BPI/BPI _m 非住宅 - 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW															
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
雨水利用率 0.0%															
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用															
特定調達品目 - エコマーク商品 ボード、ビニル床、浴槽、指定の特定品目等 -															
2.5 持続可能な森林から産出された木材															
使用比率 0.0%															
3.2.1 消火剤															
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
3.2.2 発泡剤(断熱材等)															
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
3.2.3 冷媒															
オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)															
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善															
見付面積比 58% 隣棟間隔指標R _w #REF!															
地表面対策面積率 33.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%															
見付面積S _b 5,156m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅W _s 243.3 m 基準高さH _b 36.74 m															
緑地 4,763m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²															